

◆授業のポイント◆

- ・ サイクルシート（予習～授業～復習）の活用
- ・ 教えて考えさせる授業展開の工夫（教える場面 → 理解確認の場面）

社会科学習指導案（地理的分野）

日 時 平成21年5月29日（金）1校時
学 級 2年2組（男子18名 女子19名 計37名）
授業者 教 諭 加 藤 晃 一

1 単元

世界の国を調べよう ～アメリカ合衆国～

2 単元について

「世界の国を調べよう」では、二ないし三カ国の国を取り上げ、それらの国の地域的特色を追究する学習を通して、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身につけるとともに、地理的事象を見だし、それを成り立たせている背景や要因について多面的・多角的に考察し、総合的に地域的特色を捉えさせることを目的としている。最初に扱うアメリカ合衆国は、諸外国の中でも生徒にとって比較的身近に感じられる国の一つである。日本人大リーガーの活躍やNBAなどのスポーツやハリウッド映画は中学生にも人気が高く、最近では、アメリカ大統領選挙や宇宙飛行士の若田光一さんの報道が度々されていた。アメリカ合衆国は世界第3位の国土面積を持ち、様々な地理的事象が見られる。多様な気候帯や自然環境が人口の分布や農業に大きく影響している。「適地適作」農業が大規模かつ企業的に営まれ世界有数の食料輸出国としてアメリカ産の農作物は日本をはじめ多くの国々に輸出されている。工業を見ると、アメリカ合衆国は多くの鉱産資源を有し世界有数の工業国である。自動車産業、航空・宇宙産業、コンピュータ産業など、近年絶対的優位性は揺らいではいるが、世界生産の上位に位置するとともに高い科学技術で工業を発展させている。このようにアメリカ合衆国は地域的特色が多く、生徒の興味・関心が高いため、地誌によるアプローチの仕方を学ぶ事例としては適切であると考えられる。

本学級では、約78%の生徒が「社会科が好きである」と答えている。そのなかで「地理の方が好き」と答えた生徒は、56%であった。理由として、「地図帳を読み取ることに興味がある」「地域的特色を捉えることが好き」などの回答が半数以上だった。また、「どのような授業が好きか」の質問に対しては、グループによる話し合い活動やイラストマップにまとめる学習に多くの生徒が興味・関心を持っていた。一方、自分の意見や物事を論述することに関しては約半数の生徒が苦手意識を持っていた。アメリカ合衆国については、国の位置を答えられた生徒は95%、首都名を知っている生徒は73%おり、世界の国々の中でも中学生にとって認知度の高いことが分かった。「アメリカ合衆国について知っていること」の質問に対しては、オバマ大統領、リーマンショック（経済不況）、大リーグ、ファーストフードなどの答えが多かった。生徒は、最近の報道や日常生活からアメリカについては比較的多くの情報を得ており、身近に感じていることが伺える。しかし、断片的な情報でアメリカ合衆国を捉え、民族構成や気候に応じた農業、高い技術力に支えられた工業など地理的事象を関連づけて国家の特色を捉えるまでには至っていない。

そこで、本単元では、まず、基礎的・基本的事項を精選するために単元を通しての目標構造図を作成した。毎時間の基礎目標を明確にし、身に付けさせる基礎的・基本的な知識、概念や技能を明確にした。そして、生徒がグループなどによる調べ学習で事前に調べたアメリカ合衆国の概要（国土面積、自然条件、多様な民族構成）をつかませる。次にサイクルシートや重要語句の確認を活用し、授業で

学習する内容を予習段階で捉えさせ授業での教師の説明や生徒同士の教え合い活動を通して定着を図る。さらに自己評価や復習課題で確実な習得を目指したい。最後に単元を通しての目標である中核目標が達成されているか、アメリカ合衆国のイラストマップや紹介文の作成を行う。このような一連の学習活動を通して、基礎的・基本的な知識、概念や技能の確実な定着を図り、本校の目指す「確かな学力を基盤とした生きる力」を高めていきたい。

3 単元の目標

- (1) アメリカ合衆国に対する関心を高め、調べ学習に意欲的に取り組み、アメリカ合衆国の地域的特色を捉えることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) アメリカ合衆国の地域的特色を見いだし、それを成り立たせている背景や要因について多面的・多角的に考察し、総合的に判断することができる。(社会的な思考・判断)
- (3) アメリカ合衆国を例に、統計や地図等の資料から国家規模の地域的特色を読み取り、考察した過程や結果をまとめ、説明することができる。(資料活用 of 技能・表現)
- (4) アメリカ合衆国の地域的特色について理解し、国家規模の地域を調べる視点や方法を知識として身に付けることができる。(社会的事象についての知識・理解)

4 単元の指導計画 (全4時間)

時	主 題	学 習 内 容	学 習 課 題	時間
1	テーマを決めて調べよう	・アメリカのあらまし・歴史 ・多民族国家	アメリカ合衆国は、どのような国なのだろう。	1
2	産業からみたアメリカ合衆国 ①	・地域で異なる農業 ・大規模経営	アメリカ合衆国の農業にはどのような特色があるのだろう。	1
3	産業からみたアメリカ合衆国 ②	・巨大な産業 ・他国との結びつき	アメリカ合衆国の工業は世界の国々にどのような影響を与えているのだろう。	1 (本時)
4	単元のまとめ	・イラストマップ ・紹介文	アメリカ合衆国の特色をまとめ、紹介文をつくろう。	1

5 本時の学習 (3 / 4)

- (1) 題 材 産業からみたアメリカ合衆国②
- (2) 目 標
 - ① アメリカ合衆国の主な工業地域の分布から豊富な資源や大消費地を背景に発展した工業や高い技術力で近年急速に発展している工業の特色を理解できる。
 - ② 世界各国で幅広く経営展開しているアメリカ合衆国の多国籍企業の活動から、アメリカ合衆国の工業が世界に大きな影響を与えていることを説明することができる。
- (3) 授業設計の工夫
 - ① 基礎的・基本的な知識、概念や技能の確実な定着を図る学習活動の工夫【目標構造図・サイクルシート】

単元を見通した目標構造図を作成し、生徒が身に付ける基礎的・基本的な知識、概念や技能を基礎目標として授業ごとに明確にした。また、サイクルシートを単元の最初に配付し、予習で本時の学習課題につなげる身近な課題を出題し、興味・関心を高める。授業の終末では自己評価の場面で課題への取り組みや課題解決についての自己分析をさせ、復習課題で確実な定着を図ろうと考える。

② 教えて考えさせる授業展開の工夫【 理解確認の場面 】

単元を通して、教えて考えさせる学習過程を設定した。まず、単元の最初で調べ学習を行わせ、地図帳や工業・産業の統計資料などから必要な情報を読み取らせ、アメリカ合衆国の概観をつかませた。次に生徒が調べた地理的事象を関連づけて教師側で民族構成や農業などから国家的特色を習得させた。本時は、「アメリカ合衆国の工業は世界の国々にどのような影響を与えているのだろう」と課題を設定し、これまでの学習内容と関連づけながらアメリカ合衆国の工業に視点をあてて、様々な資料から国家的特色を読み取らせるとともに、捉える視点や方法を習得させる。授業の後半では、生徒各人が学んだことを理解しているかの課題を出し、自分の意見をまとめるようにした。このように単元を通して、教えて考えさせる学習過程を設定することで社会的な見方・考え方を育成できると考える。

(4) 展 開

過程	時間	形態	学 習 活 動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業のポイント
導 入	5分 2分	一斉 一斉	1 身近にあるアメリカ企業の製品をさがす。 2 学習課題を確認する。 (学習課題) アメリカ合衆国の工業は世界の国々にどのような影響を与えているのだろう。	○ 身近にある工業製品を提示する。 ◎ 本時の学習への関心・意欲が高まったか。 ○ 本時の学習課題を全員に確認させる。
展 開	10分 13分 15分	一斉 グループ グループ	3 予習課題からアメリカ合衆国の工業地域と盛んな工業について確認する (基礎的・基本的事項) シリコンバレー、サンベルト、 多国籍企業など 4 多国籍企業に関する資料からアメリカ合衆国の企業について考察する。 ・アメリカ合衆国の多国籍企業の数 ・世界への経営展開の様子 など 5 課題の理由を考え発表する。 アメリカ企業の製品が世界各国で幅広く製造・販売されているのはなぜだろう。 <予想される答え> ・アメリカのブランド力が強い。 ・高い技術力がある。・巨大な企業が多い。 ・豊かな資源をもとに企業活動が行える。 など	○ サイクルシートの予習課題をもとに工業の分布図にまとめ、要点を解説する ※ サイクルシートの活用 ※ 教えて考えさせる授業展開の工夫 (教える場面) ○ 世界の代表的な多国籍企業の資料を提示し、アメリカ合衆国の企業が多いことを理解させる。 ◎ 適切な資料活用ができたか。 ○ 多国籍企業の多くはアメリカ合衆国の企業であるのはなぜか、資料を基に考えさせる。 ※ 教えて考えさせる授業展開の工夫 (考えさせる場面：理解確認) ◎ これまでの学習や資料を根拠に自分なりに考察・判断できたか。
終 末	3分 2分	個人 一斉	6 自己評価を行う。 7 次時の授業内容を確認し、予習課題を知る。	○ 自己評価をさせ、本時を振り返らせる。 ※ サイクルシートの活用 ○ サイクルシートの予習課題について説明する。

